

# 14 食料安全保障強化に向けた革新的新品種開発プロジェクト

【令和5年度補正予算額 500百万円】

### <対策のポイント>

人手を多く必要とし生産性の向上が求められている品目について、**生育・栽培特性をスマート技術向けに改良した品種を開発**し、高い生産性と環境負荷低減の両立を推進します。

### <事業目標>

**スマート技術に対応した品種を開発し、農作業のスマート化を図り、生産性の向上等を推進** [令和12年度まで]

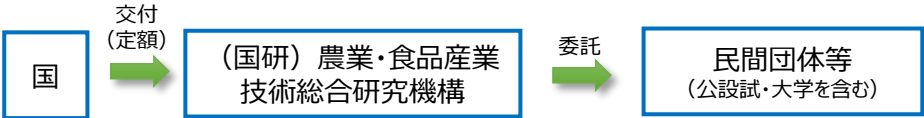
### <事業の内容>

#### スマート技術向けの特性を持つ新品種の開発

人手を多く必要とし生産性の向上が求められている果樹、野菜、大豆、イモ等を対象とし、品目ごとに**スマート技術の効果を最大限に発揮できる最適な特性へと改良した基盤的新品種を開発**します。

さらに、開発品種を遺伝子ドナーとして自治体や民間の品種開発に活用して全国に展開することにより、スマート農業の普及を推進します。

### <事業の流れ>



### <事業イメージ>

#### スマート技術に対応した特性の例

- ・機械収穫作業に対する収穫物着生位置の最適化
- ・収穫物の打撲耐性の向上や硬肉化 等

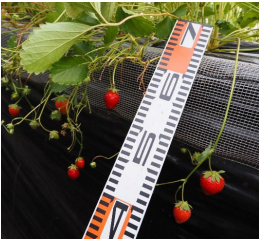
(写真：農研機構)

#### <果樹>



壁状に結実させられることから  
ロボットアームで収穫しやすいニホンナシ

#### <野菜>



果実が葉より下に実り  
ロボットアームで収穫しやすいイチゴ

#### <イモ>



皮剥け(左上)や  
折れ(左下)が少なく  
収穫しやすいカンショ



【お問い合わせ先】 農林水産技術会議事務局研究統括官(生産技術)室 (03-3502-2549)